

- ・ポイヤー (2008) 『神はなぜいるのか?』 鈴木光太郎・中村潔 (訳), NTT 出版
- ・ウィンストン (2008) 『人間の本能: 心にひそむ進化の過去』 鈴木光太郎 (訳), 新曜社

言語類型の記述的・理論的研究

研究代表者 福 田 一 雄

1. プロジェクトメンバー

- 福 田 一 雄 (代表者)
- 山 崎 幸 雄
- 三 井 正 孝
- 藤 石 貴 代
- 秋 孝 道
- 土 橋 善 仁
- 駒 形 千 夏
- 高 田 晴 夫
- 中 村 隆 志
- 並 木 宏
- 船 城 俊太郎
- 大 石 強
- 成 田 圭 市 (協力者・教育学部)
- 本 間 伸 輔 (協力者・教育学部)
- 朱 継 征 (協力者・経済学部)
- 大 竹 芳 夫 (協力者・経済学部)

池田英喜(協力者・国際センター)

2. プロジェクト概略(2004年4月1日~2010年3月31日)

言語類型に関わる基礎研究について、研究会等で、議論・検討を行った。以下はその概要である。なお、本プロジェクトの名称は、当初「東西言語類型の記述的・理論的研究」だったが、2010年度から「言語類型の記述的・理論的研究」と改めた。

3. プロジェクトの成果(研究会については2004年度分を省略)

1. 新潟大学言語研究会・人文学部研究プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」共催(以下同様)

平成17年4月25日(月)

1. 発表者:三井正孝(新潟大学人文学部助教授)

題目:単純格助詞と置換可能なニツイテの構文的位置

2. 平成17年7月25日(月)

1. 発表者:近藤綾子(新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程)

題目:量的程度副詞の再検討

3. 平成17年10月31日(月)

1. 発表者:権英秀(新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程)

題目:韓国人日本語学習者の「断り」発話行為について

2. 発表者:王怡人(新潟大学現代社会文化研究科博士後期課程)

題目:現代中国語の結果複合動詞における前項要素の機能

4. 平成17年12月21日(水)

1. 発表者:キム・ウンヨン(新潟大学国際センター留学生)

題目:韓国語母語話者の〈~てもらう〉の習得過程の実態

2. 発表者:権英秀(新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程)

題目:ポライトネスから見た断り表現

5. 平成18年2月7日(火)

1. 発表者:近藤綾子(新潟大学現代社会文化研究科前期課程)

題 目：比較構文で用いられる副詞

— もっと、さらに、いっそう、いちだんと —

6. 平成18年5月26日（金）

1. 発表者：三井正孝（人文学部准教授）

題 目：複合格助詞の〈機能〉

7. 平成18年7月24日（月）

1. 発表者：権 英秀（新潟大学現代社会文化研究科博士後期課程）

題 目：日本語学習者の〈断り〉表現について

2. 発表者：林 河運（新潟大学現代社会文化研究科博士後期課程）

題 目：初対面接触会話における話題の導入のポライトネス・ストラテジー

8. 平成18年11月13日（月）

1. 発表者：近藤綾子（新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程）

題 目：通常、平均などとの隔たりを示す副詞

9. 平成19年3月2日（金）

1. 発表者：近藤綾子（新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程）

題 目：修士論文を完成して

（テーマ：「現代日本語における程度副詞の研究」）

2. 発表者：王 怡人（新潟大学現代社会文化研究科博士後期課程）

題 目：博士論文を完成して（テーマ：「現代中国語における結果複合動詞 — Accomplishmentの事象構造 —」）

3. 発表者：三井正孝（新潟大学人文学部准教授）

題 目：副詞〈とうてい〉攷

10. 平成19年5月11日（金）

1. 発表者：福田一雄（人文学部教授）

題 目：ポライトネス理論におけるフェイスの概念について

11. 平成19年7月20日（金）

1. 発表者：中村隆志（新潟大学人文学部准教授）

題 目：“ケータイのディスプレイを見る行為”のコミュニケーション

2. 発表者：戸出朋子（新潟医療福祉大学准教授）
題 目：中学生のbeの学習における練習頻度と明示的学習の効果：
事例基盤の第2言語学習の視点から
12. 平成19年10月31日（水）
 1. 発表者：マリーナ・エフレモア
題 目：日本人およびロシア人日本語学習者の文章における結束性
— 接続関係の分析から見た学習者の日本語の不自然さ—
 2. 発表者：三井正孝（新潟大学人文学部准教授）
題 目：いわゆる叙法副詞ドウモの意味
13. 平成20年3月3日（月）現社研プロジェクト「フランス文化の諸問題に
関する総合的研究」との共催
 1. 発表者：小杉美幸（新潟大学人文学部4年）
題 目：〈起点〉を表す格成分について—ヲとカラー—
 2. 発表者：駒形千夏（新潟大学人文学部助教）
題 目：フランスの初等・中等教育における現代語教育
 3. 発表者：金 世朗（新潟大学非常勤講師）
題 目：日韓待遇表現法の対比
14. 平成20年5月9日（金）
 1. 発表者：星野真博（新潟大学現代社会文化研究科博士後期課程）
題 目：英語進行形の繰り返し用法について
15. 平成20年7月28日（月）
 1. 発表者：大竹芳夫（新潟大学経済学部准教授）
題 目：名詞節化詞〈の〉を伴う構文と対応する他言語構文の特性
 2. 発表者：加藤茂夫（新潟大学教育学部教授）
題 目：日本の英語教育の基準はどの英語に置くべきか？
— ELF（English as a Lingua Franca）の視点から—
16. 平成20年11月15日（土）
 1. 発表者：範 海翔（新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程）
題 目：中国人日本語中・上級学習者における日本語語順習得上の

諸問題 — 格成分を中心に —

2. 発表者：成田圭市（新潟大学教育学部准教授）
題 目：IPA（国際音声学協会）英語音声学技能試験について
3. 発表者：高田晴夫（新潟大学人文学部教授）
題 目：フランス語の《動詞＋名詞》型動詞由来合成語の特徴について — 日本語との比較の視点から —
17. 平成20年12月22日（月）現社研プロジェクト「フランス文化の諸問題に関する総合的研究」との共催
 1. 発表者：駒形千夏（新潟大学人文学部助教）
題 目：ヨーロッパ言語ポートフォリオにみる言語バイオグラフィーの意義
 2. 発表者：阿部 聡（新潟大学現代社会文化研究科博士後期課程）
題 目：英語教材のテキスト分析：選択体系機能言語学の視点から
18. 平成21年5月8日（金）
 1. 発表者：ジョージ・オニール（新潟大学大学教育開発研究センター 准教授）
題 目：会話分析の基本概念について
19. 平成21年7月27日（月）
 1. 発表者：田中 敦（新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程）
題 目：受動表現による認知主体の概念化
 2. 発表者：田中真由美（長岡工業高等専門学校助教）
題 目：英語リーディング教材の批判的談話分析
 3. 発表者：大西耕二（新潟大学理学部教授）
題 目：アイヌ語とオーストロネシア（南島）語族の語頭子音対応法則とユーラシア諸言語（日本・琉球語、ウラル語族、印欧祖語など）との語頭子音対応法則
20. 平成21年10月30日（金）
 1. 発表者：星野真博（現代社会文化研究科博士後期課程）
題 目：測定と交替現象

2. 発表者：高田晴夫（新潟大学人文学部教授）

題 目：多言語自動処理ソフト UNITEX について

21. 平成21年12月22日（火）

1. 発表者：ジョージ・オニール（新潟大学大学教育開発研究センター准教授）

題 目：Praat を利用した超分節音素の操作について

2. 発表者：福田一雄（新潟大学人文学部教授）

題 目：選択体系機能理論から見た日本語繫辞構文の過程構成

22. 平成22年3月19日（金）

1. 発表者：成田圭市（新潟大学教育学部准教授）

題 目：新著『英語の綴りと発音』のエッセンス

2. 発表者：大西耕二（新潟大学理学部教授）

題 目：日本語のニューカレドニア語群由来性と、ツングース
ーフィリピン語群からの借用語について

4. 講演会の開催

1. 東西言語類型論プロジェクト講演会

主催：新潟大学人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」、および、科研プロジェクト「英語の転移現象に関する統語構文論的・機能構文論的研究」（代表 秋 孝道）

後援：人文学部（研究推進のための学部長裁量経費）

日時：平成19年12月17日（月）午後4：30～6：00

講演：学習院大学文学部教授 高見健一先生

題目：英語の〈場所句倒置構文〉— 文中の位置と機能 —

2. 東西言語類型論プロジェクト講演会

主催：新潟大学人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」、および、新潟大学プロジェクト推進経費（助成B）・新潟大学人文・社会・教育科学系学系系長裁量経費（学系基幹研究）によるプロジェクト「諸言語の格関係交替現象に関する統語構文論的・機能

構文論的研究」(代表 秋 孝道)

共催：新潟大学人文学部

日時：平成21年1月9日(金)午後4:30~6:00

講演：東京大学大学院人文社会系研究科教授 角田太作先生

題目：連体修飾節と体言締め文

3. 東西言語類型論プロジェクト講演会

主催：新潟大学人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」

共催：新潟大学プロジェクト推進経費(助成研究B)および新潟大学人文・社会・教育科学系研究支援経費(学系基幹研究)によるプロジェクト「諸言語の位置交替現象に関する統語構文論的・機能構文論的研究」(代表 秋 孝道)

後援：新潟大学人文学部

日時：平成21年10月16日(金)午後4:30~6:00

講演：大阪府立大学人間社会学部言語文化学科教授 野田尚史先生

題目：文レベルと談話レベルにおける文法現象の違い

—日本語のテンス・モダリティ・ボイス・主題などを例にして—

5. 2005年4月1日~2010年3月末までの研究成果一覧

(紙幅の都合で学会での口頭発表、各種研究プロジェクト報告書の記事、講演等の業績を割愛せざるをえなかった。)

福 田 一 雄

1. 論文(単著)「機能言語学から見た日本語—『富士山が見える』構文とその周辺—」『ことばとくらし』(新潟県ことばの会), No. 16, pp. 1-11 (2004)
2. 論文(単著)「フェイスは一つか二つか—G. Leech (2003)におけるポライトネス論をめぐって—」*International Journal of Pragmatics* (Pragmatics Association of Japan), No. 15, pp. 27-46 (2005)
3. 著書(単著) *Theme/Rheme Structure: A Functional Approach to English and*

Japanese (Niigata University Scholar's Series Vol. 5), Niigata University, Japan (2006), 総頁187 + xii

4. 総説・解説記事(単著)「英語教育の哲学と方法をもとめて」『中央評論』, No.258(中央大学出版部), pp.24-34(2007)
5. 論文(単著)「構文選択の動機と格関係交替現象-選択体系機能言語学の視点-」『新潟大学言語文化研究』, No.13, pp.1-8(2008)
6. 論文(単著)「日本語における無助詞の機能-主題性を中心に-」*Proceedings of JASFL*(日本機能言語学会), No.3, pp.49-58(2009)
7. 著書(単著)『人はなぜわかり合えるのか-言語学から見たコミュニケーションの仕組み-』(ブックレット新潟大学53)新潟日報事業社(2010)
8. 論文(単著)「日本語繫辞構文の過程構成に関する覚え書き」『言語の普遍性と個別性』(新潟大学大学院現代社会文化研究科「言語の普遍性と個別性」プロジェクト), Vol.1, pp.3-19(2010)

三 井 正 孝

1. 論文(単著)「《場所》のニオイテ格-----現代語の場合-----」『人文科学研究』114, 1頁~36頁(2004)
2. 著書(共著)「格助詞らしからぬ〈複合格助詞〉-----ニツイテ, ニトツテ, ラモツテ, トシテの場合-----」藤田保幸・山崎誠(編)『複合辞研究の現在』(和泉書院)(2006年11月)
3. 論文「複合辞としてのニワタツテ-----その意味と共起条件-----」『新潟大学国語国文学会誌』49, (2007年4月)
4. 論文「複合辞としてのニアタツテ-----その共起条件を中心に-----」『新潟大学国語国文学会誌』50, (2009年3月)
5. 論文「複合辞としてのラメグツテ-----その意味と共起条件-----」『新潟大学国語国文学会誌』51, (2010年3月)

藤 石 貴 代

1. 論文(単著)「**「일본에서의 이상 문학 연구** (日本における李箱文

- 学研究)」（朝鮮語），『이상리뷰 (李箱 Review)』 Vol.3 No.1, pp.183~200 (2004)
2. 著書 (共編著) 『金鍾漢全集』, 綠蔭書房, 2005. 7, 866頁
 3. 論文 (單著) 「김종한과국민문학 (金鍾漢と国民文学)」（朝鮮語），『사SAI』創刊号, 國際韓國文学文化学会 (大韓民国), 2006. 11, 131~148頁
 4. 総説・解説記事 「村上春樹と金素雲の間」, 『言語』 Vol.36 No.4, 2007.4, 52~59頁
 5. 総説・解説記事 「抒情の罫 - 金素雲と金時鐘」, 『國文學』 Vol.53 No.7, 2008.5, 76~83頁
 6. 総説・解説記事 「喪失と省察 - 現代韓國文学点描」, 『國文學』 Vol.54 No.2, 2009. 2, 66~72頁
 7. 論文 (單著), 「마키무라 코우 『간도 빨치산의 노래』의 기원 (槇村浩 『間島パルチザンの歌』の起源)」, 『東アジア』第18号, 新潟大学東アジア学会, 2009.3, 26~44頁

秋 孝 道

1. 論文 (共著) 「進行形の成立条件に関する覚え書き」 (共著者 星野真博), 『欧米の言語・社会・文化』, Vol.12, pp.1 - 22 (2006年3月)
2. 論文 (單著) "Notes on the Existential Sentence with a Locative Expression in English", *Niigata Studies in Foreign Languages and Cultures*, Vol.12, pp.21-28 (2007年5月)
3. 論文 (單著) "A Note on the Locational *There*-Sentence in English", *The State of the Arts in Linguistic Research*, Kaitakusha (2008年3月)
4. 論文 (單著) "A Preliminary Study on the *Wh*-Cleft Construction in English", *Niigata Studies in Foreign Languages and Cultures*, Vol.14, pp.1 - 10 (2009年6月)
5. 論文 (單著) "Notes on *Tough*-Sentences in English", 『言語の普遍性と個別性』, Vol.1, pp.21 - 30 (2010年3月)

土 橋 善 仁

1. 書 評 論 文 “Gillian Ramchand and Charles Reiss, The Oxford Handbook of Linguistic Interfaces.” *Studies in English Literature*. Vol.51, pp.198 - 204 (2010年3月)

高 田 晴 夫

1. "Etude contrastive de certains types de mots composés japonais et français", 博士論文, Vol. パリ第13大学, pp. 1 - 423 (2004)
2. 著書 (共著) 「フランス語語形成論の新しい視点-- 統辞型語形成語をめぐって--」渡瀬嘉朗, 小野正敦, 高田晴夫 (他22名, 21番目) 『フランス語を探る』三修社, pp.279-292, 2005
3. 著書 (単著) 『Le Mot Composé』 Niigata University Scholar Series Vol. 8, pp.1 - 441, (2008年)
4. 論文 (単著) 「Quelques regards sur le mot composé japonais en « substantif + verbe » comparé à son équivalent français en « verbe + substantif », 『Actes du 27ème Colloque International sur le Lexique et la Grammaire』, pp.159-164, 2008
5. 論文 (単著) 「Chauffe-biberon は述語名詞かそれとも項名詞か?」, 『新潟大学人文科学研究』, pp.85 - 100, 2010

以上が、プロジェクト・メンバーの研究業績の概要である。多様な研究テーマと多様な研究方法を通じて、言語類型の基礎研究の蓄積を行った。

本プロジェクトは、新潟大学言語研究会 (Niigata University Language Circle: NULC), 現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」, そして学内の研究支援指定を受けてきた言語学系プロジェクトと日常的に情報交換を行ってきた。今後もそれらの研究会やプロジェクトと連携しながら、より実り多い研究活動を展開したいと思っている。